





























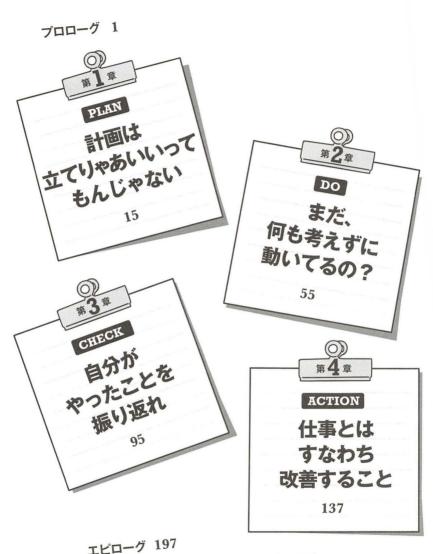




Business ComicSeries







<sub>エピローグ</sub> 197 山瀬社長の PDCA ノート 205

参考文献 238



## 武石ナナ

中小タオルメーカー 「山瀬タオル」で働く、 入社6年目の営業女子。 焼き肉とバッティング センターでストレス解消。



### 平川優太 (ひらかわ・ゆうた) 山瀬タオルの営業部員。 猫と女の子が大好き。 でもいちばん好きなのは自分。

# おもな登場人物



渡部 猛 (カたベ・たけし) 元球児の営業部員。

元球児の営業部員。 先輩であるナナを慕っている。



小林美紀 (こばやし・みき) 総務部。 ゲーテの詩集を 持ち歩く文学女子。



山瀬祐一郎 (やませ・ゆういちろう) 山瀬社長の長男で 専務取締役。



山瀬玲子 (やませ・れいこ) 山瀬社長の長女で 常務取締役。



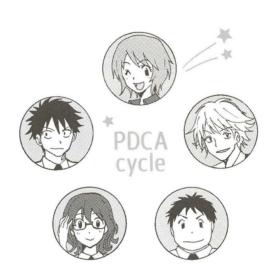
久田 徹(ひさだ・とおる)

(ひさだ・とおる) 営業部マネージャー。 学生結婚した妻と 2人の子どもがいる。 山登りと釣りが趣味。



山 **湖 権 适**(やませ・ごんぞう)

二代目社長。 社長室で不審死を遂げる。





### PLAN

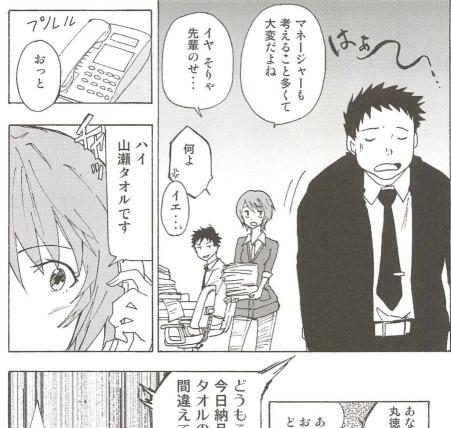
## 計画は 立てりゃあいいって もんじゃない

PDCA を回すとき、まず必要になるのが「PLAN」。 当然、計画を立てなくては何も始まりません。 とはいっても、何も考えず「計画を立てればいい」 というものでもないのです。

うまくいくには、うまくいくための計画の立て方があります。 この章では、PDCA 全体の基盤となり、 次の「DO」につながっていく 「PLAN」の立て方を紹介します。





























## PLAN

ゴールを設定し そのために何をするのか 仮説を立て施策を考えること

















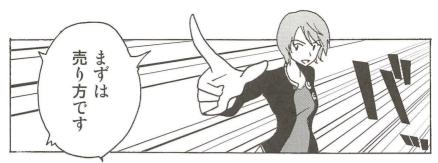


④ 課題を解決するための具体策を検討しなさい































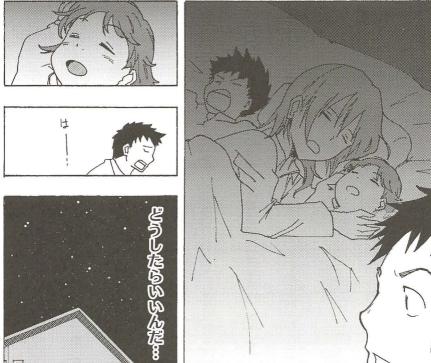






























これをどの順序で 新規開拓

売り方の工夫

新商品開発

うらん





6 想定リスクを抽出し 対策を講じなさい



















会議























### PLAN

まとめ

# 何をするのか仮説を立て、施策を考えることゴール(目標)を設定し、そのために

### ◆まずはゴールを決める

を考えます。ゴールにたどりつくための「計「PLAN」の段階では、まず目標(ゴール)

画」ですから。

上目標の達成=ゴール」でした。 営業部員であるナナの目標は、ズバリ、「売

国ピアノコンクール優勝」でも大目標であれもちろん、「企画した商品の完成」や「全

ばOKです。

# (4ページ)→ 「まず、達成すべきゴールを設定しなさい」

なので、今の売上と目標までの差を考えます。

ナナの場合はゴールが「売上目標の達成」

### ▼ゴールと今の自分の距離は?

### PLAN

ゴールを設定し そのために何をするのか 仮説を立て施策を考えること



抽出しなさい」(25ページ)、

「課題を解決する

ための具体策を検討しなさい」(29ページ)

要です。 ◆手をつける順番も大切 本果を出すためには、ただやみくもに手を がある順番も大切 ページ)、「現状との差を埋めるための課題を が売れないこと」でしょう。これを解決する が売れないこと」でしょう。これを解決する が売れないこと」でしょう。これを解決する が売れないこと」でしょう。これを解決する という視点でアドバイスをもらい、それをク リアするための具体策を考えました。

に「新規取引先の開拓」、最後に「売り方のえない」と考え、まず「新商品の開発」、次れていても、いい商品じゃないと買ってもら店舗に商品がないとダメ」「店舗に多く置か入田マネージャーも「売り方を工夫しても、

→ 「具体策を実行する順序を決定しなさい」

(42ページ)

工夫」と実行の順序をつけました。

## ◆コトを起こす前には必ず予防策を!

で、「計画倒れ」となるのです。ものです。対策のないままに計画を進めるの何か行動を起こす際に、リスクは必ず生じるそして、忘れてはいけないリスクヘッジ。

物語では、それぞれのリスクを、「菊さん(古

参社員)」「営業力の弱さ」「アイデア力の欠如」 をし、久田マネージャーは思い切って人事異 動という対策に踏み切りました。そして、全 体会議の場で人事異動の発表を行い、新たな 体会議の場で人事異動の発表を行い、新たな 全社員に見せることで、意識の共有を図りま した。これも非常に重要なことです。 した。これも非常に重要なことです。 せん。これも非常に重要なことです。 した。これも非常に重要なことです。

はじめて「計画を立てた」と言えるのです。画」とは言いません。上記のことを実行して画、とは言いません。



第2章

DO

### まだ、

### 何も考えずに動いてるの?

「PLAN」で無事に計画を立てられたら、

次は、いよいよ「DO」(実行)。

ここで最大の障壁となるのは、

おもに、「計画倒れ」(計画通りに物事が進まない)と…… 「不測の事態」(思ってもみないことが起きてしまった)です。

この2つの要因を取り除けば、

立てた計画は驚くほどに進んでいきます。

それぞれの対処の仕方を紹介していきましょう。























**D O 進捗を確認しながら施策を実行し** 問題が発生したら対応すること

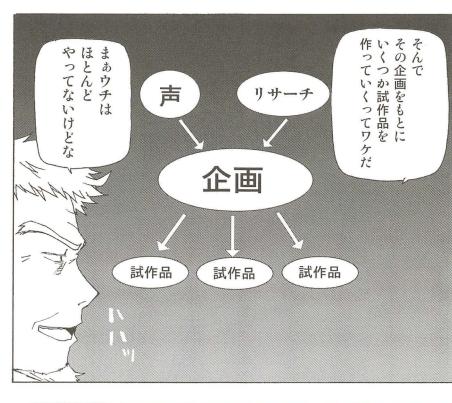


① 達成手段を 細分化し 業務フローに 落とし込みなさい











② 業務フローを 行動スケジュールに 落とし込みなさい







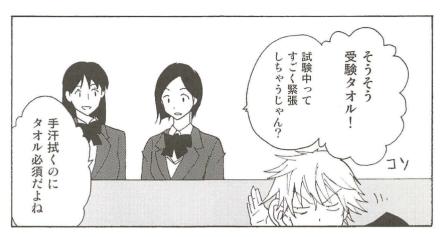


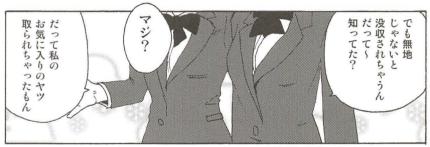




















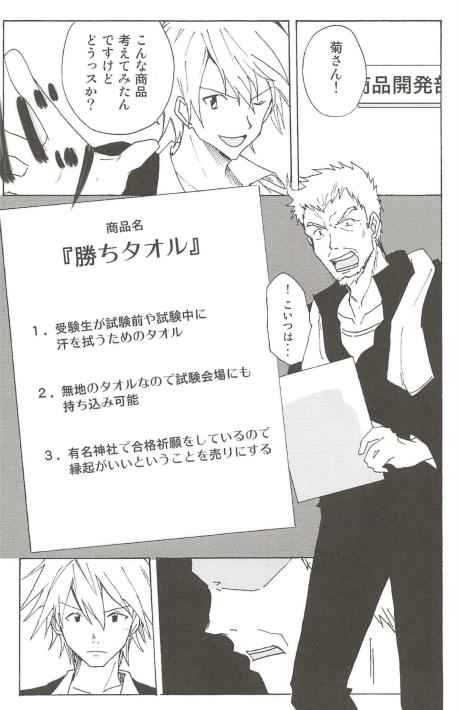








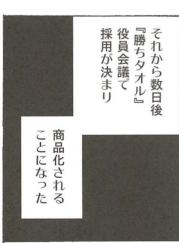






















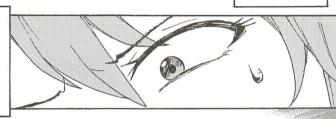




#### DOの問題発生時の対応方法

問題発生時は ダブルループを回せ! 問題発生してるして

何ソレ! ダブルループ?



ダブルループとはDOにおける問題発生時のPDCA

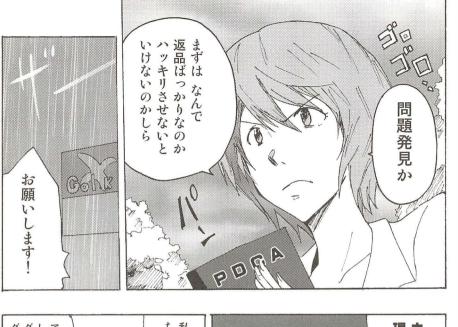
- Problem Finding
- ② Display
- 3 Clear
- ④ Acknowledge

である

① Problem Finding (問題発見)



意味わかんない! 英語ばっかで









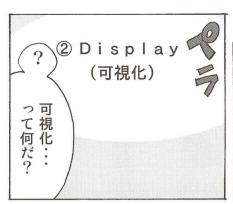
その吸水性を売りに

てるんですけど!?

ウチのベーシックタオルは



でより山瀬のタオルを使わせて頂い ものです、 タオルがやっぱいいんじゃない? まず、書かせて戴くと最近の山瀬さんは道 あきれてしまいず 思しきまな 基本の タオルがやっぱいいんじゃない。コストも大事なのでしまいの山瀬さんは道のと値段に見合わないかなーと思いまず基本のタオ ベーシックタオル使えねーわw 定けりや雑巾用に買うW 維巾タオルWWW つかえねーーよ!! 京小人民方理以来 吸い取らないもん どうすりゃ 一ばい 1 4 のよ か事 op コレ 景品でもらっても 使うかどミョール 品質おちたよな一 こったのに残念





































DO

まとめ

# 問題が発生したら対応すること進捗を確認しながら施策を実行し、

## ◆目標を細分化して、業務フローにする

DOで大切なことは、何よりも「計画を 進めていくこと」。そのためには「きちんと やるための仕組み作り」と「やったか、やら かったのかの確認」が重要となってきます。 か語では、優太の目標は「新商品の開発2 点以上」に設定されました。開発担当の菊さ んに業務の流れを聞くと、「消費者の声を聞 く」「市場の動きをリサーチ」「それらを元に く」「市場の動きをリサーチ」で

も良いでしょう。

## → 「達成段階を細分化し、業務フローに落と

し込みなさい」(61ページ)

### ◆業務を実行に移すための工夫を

限を決めて、カレンダーに書き込んでいって込んでいくことで、行動につながります。期業務フローを、現実的なスケジュールに組みせっかく業務として組み込んでも、実行しせっかく業務として組み込んでも、実行し

**みなさい」(63ページ)**→ 「業務フローを行動スケジュールに落としこ計画倒れ」になることを避けられるでしょう。設けました。このようにすれば、「先送り」や設けました。



#### ◆DOの中にも、PDCAがある

ります。これを「ダブルループを回す」と言(全体+ DO)のPDCAを動かすことになたれを回しながら DO を進めるため、2つをが、DOの中で問題が発生した場合、有効の。DOの中で問題が発生した場合、有効

(78ページ) → 「問題発生時はダブルループを回せ」 います。

### ◆まず、「何が問題なのか?」を探す

ナがスーパーの担当者から返品理由を聞き出ず何か問題が隠されています。物語では、ナロO がうまく回らないとき、そこには必

し、「タオルの吸水性」という問題を発見し

→「P…Problem Finding(問題発見)」

(78ページ)

## ◆再発防止のため、問題は必ず共有

ていきました。 は会社への一斉メールで「見える化」を図っとなく、皆で共有することが重要です。ナナとなく、皆で共有することが重要です。ナナ

### →「D…Display(可視化)」(82ページ)

発生した問題に対し、解決方法を探っている問題を見つけたら、すぐに解決させる

きます。

ナナは、すぐに製造部門の担当に一吸

行動に移すことも大事なポイントです。ナのように解決方法の端緒を見つけたら、即水性」について改善するよう依頼します。ナ

→ 「C…Clear (問題解決) 」 (8ページ)

#### ◆本当に「それ」が問題なのか?

問題解決に向けて、提案した問題や解決方問題解決に向けて、提案した問題や解決)」「C (問題解決)」問題ないことを確認し、ベーシックタオルの物語では、タオルの吸水性テストを行ってに戻り、別の方法を探しましょう。 しい 問題解決に向けて、提案した問題や解決方

→「A…Acknowledge(確認)」(8ページ)



第3章

#### CHECK

#### 自分が やったことを 振り返れ

「PDCA が回らない」という悩みの多くは、 実はこの「CHECK」(評価)が うまく機能していないことが原因となっています。 計画して実行するところまでは大抵の人ができるのに、 そこから進まないのは検証のやり方を知らないから。 「ブレイクスルーの鍵は、CHECK にあり」と いっても過言ではありません。 ここでは、PDCA を回すキモともいえる 「CHECK」の方法を学びましょう。

































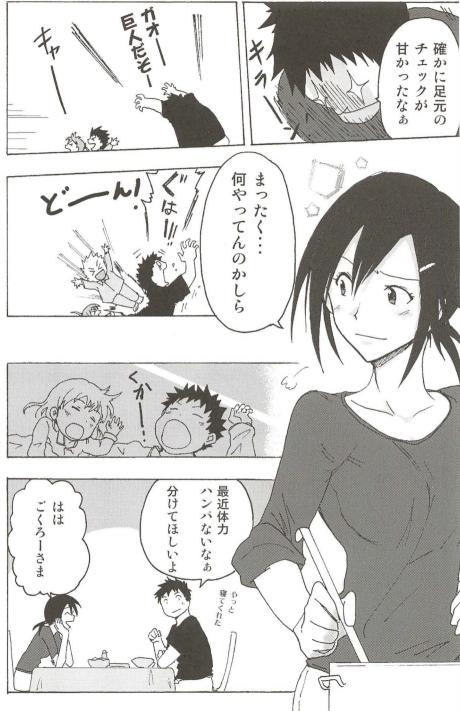
















## CHECK

計画に沿った施策の検証・評価を行い ミスがあればカバーすること



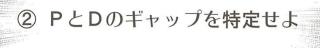












次は

### PLAN

ゴールを設定しそのために何をするのか

かっ



進捗を確認しながら施策を実行し 問題が発生したら対応すること

ギャップの問題間に生まれる

ANEDOO

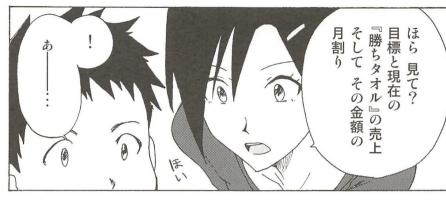




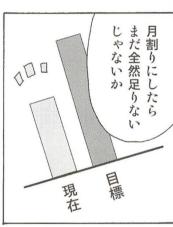










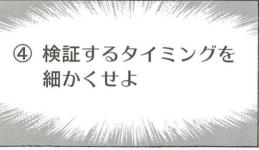




③ 検証する対象を 明確にせよ

次!







































# 営業部











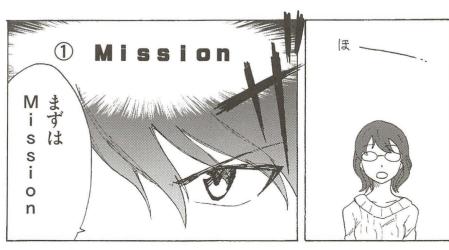






5つの



















# CHECK

# まとめ

# ミスがあればカバーすること 計画に沿った施策か検証・評価を行い、

# ◆Cが感想になるから、次のAに進めない (評価) はあくまで客観的視点

H E C K

あってはいけません。 た」「うまくいった」などの主観的な感想で での「検証」でなければならず、「よくでき

体的に語られないため、せっかく計画・実行 くできていないことが挙げられます。Cが具 が、その大きな理由の1つにこの検証がうま してきたことも、「なんとなくやりっぱなし」 「効果がよくわからない」という状況になっ Cができていない人・企業は多いものです

てしまうのです。

→ 「検証と感想を混同するな」(110ページ)

字)」を明らかにすることが大切です。 実際にどのくらい業績がアップしたのか が上がっていたとしても「なんとなく上向き」 のムードに酔うのではなく、「計画に沿って、 できたかを具体的に検証します。実際に業績 ◆計画したこと、どれくらいできていた? Cでは、計画したことが、どれくらい達成 (数

→ 「PとDのギャップを特定せよ」 (112ページ)







# ◆比較対象を決めて、より明確な検証を

の要素と比較することも必要です。数字は、単体だけで見るのではなく、ほか

検証じゃなく

あなたの

発言は

ただの感想なのよ!」ここに書いてある通り

「勝ちタオル」についての甘さを指摘されていました。 (時ちタオル」についての甘さを指摘されてどうかなど、比較する対象を設定して相べてどうかなど、比較する対象を設定して相がら他商品との比較についても、同価格の商品と比比べどのくらい売れたのか、他社の商品と比比べどのくらい売れたのか、他社の商品と比けべどのくらい売れたのか、他社の商品と比べてどうかなど、

# 検証はできるだけこまめに

→「検証する対象を明確にせよ」(114ページ)

と悠長に設定した上、振り返り・検証をして検証の時期を「期末など、年に1回」など

対応が後手後手になってしまいます。正しなければいけないことが起こった時に、いない人も多いものです。これでは、何か修

こまめに検証することが大事です。と検証のタイミングを短く設定しましたが、物語では、久田マネージャーも「毎週1回」

→ 「検証するタイミングを細かくせよ」(115

# ページ)

# ◆ミスは5つのMに分類される

大きく5種類に分けられます。それは、人間が犯すミスはいろいろとあるものの、

によるミス」「Management(管理)によるミ「Machine(機械・ツールの扱いにくさや故障)

聞つ列所) ここなどなし。 ス」「Media (情報伝達) によるミス」「Man (人

何かミスを起こした時には、これらいずれ間の判断)によるミス」。

たとえば、「見積もりの金額を間違えてしかに該当するはずです。

ティーン仕事で緊張感をなくしていた」(=まった!」というミス1つをとっても、「ルー

||使命感の欠如)によるものかもしれませんし、テーン仕事で緊張感をなくしていた」(==

どれに当てはまるか冷静に判断し、対処しの扱いにくさ)ことによるかもしれません。「EXCEL が使い慣れていなかった」(=機械

→ 「ミス発生時は ^5つのM、(Mission・

ていきましょう。

原因を明確にせよ」(12のページ) Machine・Manageent・Media・Man)で、



第4章

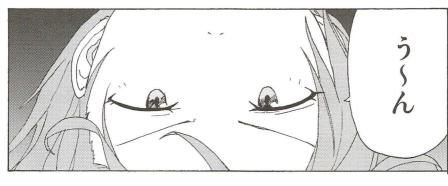
## ACTION

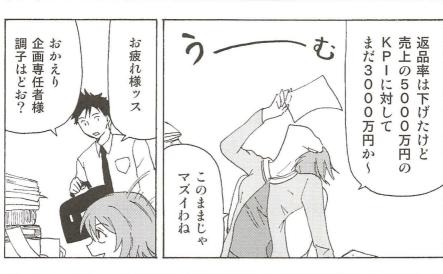
# 仕事とは すなわち 改善すること

いよいよ最後の項目「ACTION」です。

計画して実行、それを評価したあとに「改善点」を見つけます。 これこそが「PDCA サイクルを回す理由」と言ってもいいでしょう。 組織のクセとも呼べる部分から、改善点は見えてきます。 ここでは改善点を見つけ出すコツと

改善点に向かい合うための思考を紹介します。





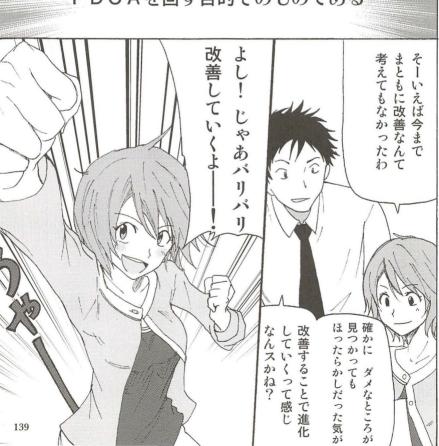


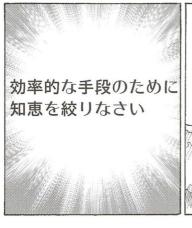


## ACTION

発見された改善すべき点を 是正しながら 思考を変えていくこと

A c t i o n (改善) は P D C A を回す目的そのものである









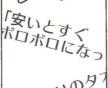






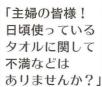
「よろしければ 詳しく インタビュー させて ください!」





う気に入りのタブ

「タオルなんて どれも一緒」































































## ACTION

改善点に向き合うための思考を持ちなさい

① センター思考

当事者意識を持ちなさい















































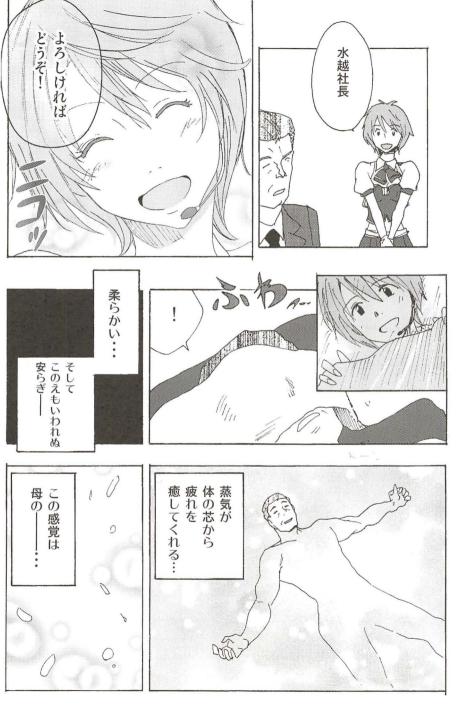


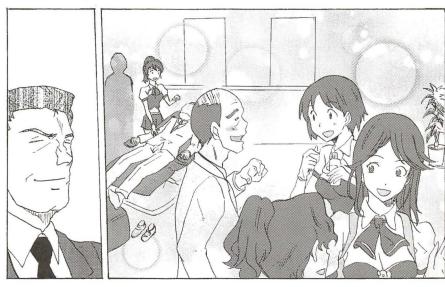










































#### ACTION まとめ

## 思考を変えていくこと 発見された改善すべき点を是正しながら、

## ◆改善こそがPDCAの目的

ます。日々の仕事における業務効率を改善す るために、PDCAを回すのです。 のか?」の Answer (答え) でもあると言え Aは改善であり、 「なぜ、 PDCAを回す

のものである」(139ページ) →「Action(改善)はPDCAを回す目的そ

# ◆頭を使って、手段を考え抜け

するのではなく、今よりもっと効率化するた 手段といっても簡単に思いつくものを実行

めの方法を「とにかく頭を使って考える」と

を使った手段が有効」だと気づきました。 婦が会話中もスマホを離さない光景を見て、 →「効率的な手段のために知恵を絞りなさい」 「主婦への質問は、スマホ(ネットや SNS) いうことが大事です。 物語中、優太は悩み抜いた末に、公園で主

# 「誰が何をしているのか?」を明確に

(140ページ)

組織ではどうしても1人ひとりの業務がタ





ていることがとても重要です。それぞれの人の日常業務が「見える化」され員の業務や状態を把握・理解するためにも、コツボのように属人化しがちです。ほかの社

1,

ジ)→「日常業務を見える化しなさい」(145ペー

◆改善点は属人と否定語から見つける 仕事や業務において「誰でもできることや、 言われたことしかやっていない」という状況 言かれたことしかやっていない」という状況

ナナも苦手な亀岡社長に対して「ムリ!」

をつけるべき改善点になります。

→「**改善点は、属人的・否定語にフォーカスせよ**」捨てれば、見えてくるものがあるはずです。自分にしかできないことを探し、否定語を己の改善に当たり、商談を成功させました。

# ◆改善できる人の「3つの思考」

(160ページ)

(148ページ)

めの3つの思考です。 最後に紹介するのは、改善点に向き合うた

また、私たちはつい易きに流れ「できないつまりどんなことも他人事と思わず「自分事」と捉える意識を指します。

うすればできるか?」にシフトすることが重理由」「やらない理由」を考えがちですが、「ど

い…センター思考・プラス思考・ステップ思考」一、改善点に向き合うための思考を持ちなさにクリアしていく意識も大切です。一、段階的です。これを「プラス思考」と言います。

大勢」のままでしょう。ここで慢心してしまえば、あなたは「その他言っても、1つのゴールに過ぎないからです。おり」と思ってはいけません。Aができたとわり」と思ってはいけません。Aができたとここまできて、「PDCAができた!」「終







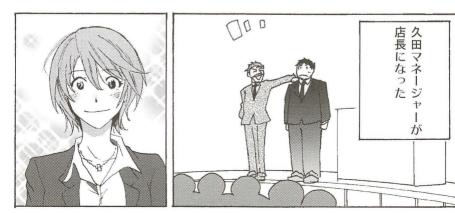




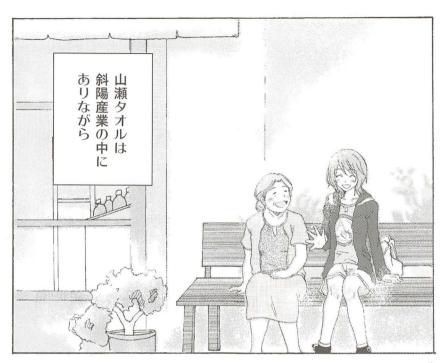


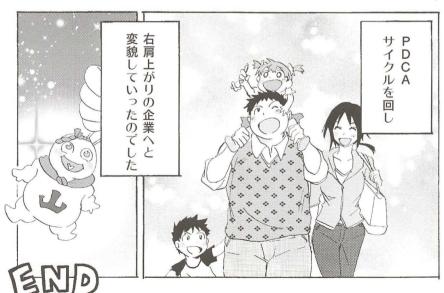












## PDCA ノート



山瀬権造

#### 「PDCAサイクル」は なぜ必要なのか?

ビジネスはすさまじい速さで進化を続けている。われわれの業界全体は縮小傾向にあり、取り巻く環境も刻々と変化をしている。競合他社が一歩先んじた商品を開発してくるのであれば、それ以上の付加価値をもった商品を開発・提供しない限り、このビジネスからの撤退も余儀なくされてしまう。そして、競合よりも脅威なのは時代の変化だ。そのような変化に対応していくためにも、いかに「自らが最速・最短で進化していけるか」を問われていると言っても過言ではない。

しかし、多くの組織やビジネスパーソンは進化することを考える以前に、自分の行動の範囲内だけで目の前の仕事を作りこもうとしてしまう。組織を成長させたい、ビジネスパーソンとして活躍したいのであれば、「今まで通りにやる」ということを見直し、考察を入れながらどんどん改善を図っていくことが重要である。それがまさに「PLAN → DO → CHECK → ACTION」の「PDCAサイクル」なのだ。組織人としてPDCAサイクルを知り、日々回していくことは必須だと考える。

#### まず、達成すべき ゴールを設定する。

宿を探すのは、その旅行を楽しむため。ルートを確認 するのは、その山に登るため。

何かを計画しようという時には必ず「ゴール」となる 目標があるはずだ。だから、計画を立てる時は、自分た ちが「なぜそれに取り組むのか」を明確にすると同時に、 目標として具体的なゴールを設定するべきだ。しかも、 それは「数値化」することが望ましい。

大目標である KGI(Key Goal Indicator)と、それを 達成するための中目標となる KPI(Key Performance Indicator)を数値設定し、まずは KPI の達成を目指す べきだ。「がんばろう」とか「一生懸命やろう」という のは目標とは呼べない。「売上を●億円あげる」といっ たゴールをしっかりと KGI に設定し、それを達成する ために店舗にお客様を何人集めたいのかといった数値を KPI として設定すべきなのだ。そうしなければ、目標 を達成することなどいつになってもできないだろう。

#### 次に、ゴールと 現状の差を明確に。

では、ゴールとして設定した目標に対して、現状はどのような状態にあるのだろうか。目標まで、どのくらい離れているのだろうか? 離れているのは構わない。目標までの距離を明確にしなければならないのだ。

多くの人は目標から遠く離れているという現実から目を背けたがる。しかし、距離を明確にして向き合わなければ、どこから着手すればいいのかがわからなくなってしまう。

それにくわえて、現在の自分のレベルのまま進んだ場合にどこまでいけるのか、という点まで把握するべきだ。 つまり、今のままだったら「目標とする数値」の何%く らいを達成することができるのか。それも明確にするの だ。

たいていの場合、現状維持でいいはずがない。だからこそ、PDCAサイクルの重要性をさらに感じることができるはずだ。

#### Date **PLAN**

#### 現状との差を埋めるための 課題を抽出せよ。

では、目標と現状に距離(差)がある場合、その差を埋めるためには、何に取り組むべきなのだろうか?

#### まずは、差を埋めるための「課題」を抽出するべきだ。

なぜ差を埋めることができないのかを冷静に考え、 正成していく。どんな些細な課題でも 構わない。とにかく書き出していくのだ。

そして次に、その課題に対して優先順位をつけていく。 どの課題を先に解決しなければならないのか。1つひと つと向き合いながら、じっくり考えるといいだろう。な かには課題だと感じていたものがたいした課題ではない ことに気づく場合もあるはずだ。

逆に、実は緊急性の高い課題を発見することにもなるかもしれない。とにかく課題と向き合う時間を作るのが重要だ。

#### 課題を解決するための 具体策を検討すべし。

優先順位をつけた課題に対して、その課題を解決する ための具体策を1つひとつ考えていこう。解決策として は、過去の成功体験や失敗体験が参考になるかもしれな 11

または、チーム内に蓄積されていた知識やノウハウが 活用できるかもしれない。とにかく、今持っている知見 をフルに絞り出しながら、その課題を解決するための具 体策を抽出していくのだ。

何かの本で読んだが、フランスの哲学者デカルトも「困 難は分割せよ」と言っていた。

大きな課題だと思っていたものが、小さく分解して優 先順位をつけることによって、案外ラクに解決策が見つ かると感じるものなのだ。

#### 具体策を実行する 順序を決定せよ。

解決のための具体策が見つかってきたら、それを実行 する順序を決めるべきだ。課題を解決するために優先順 位をつけたはずだが、具体策を実行する順序とは必ずし も連動しなくて構わない。具体策を実行する順序は、行 動しやすいところから取りかかるべきだ。

PDCAサイクルにおいては、「まず動き始めること」 が重要になる。机上でいつまでもゴタゴタ言っていない で、とにかく着手できるところから早めにDOに移るこ とがポイントである。

また、事前に決めておいた「課題を解決するための優 先順位 | を頭に入れておきながら実行すれば、全体を俯 瞰して見渡すことができるメリットもある。目標を達成 するまでのステップとして「優先順位」と同時に「行動 すべき順序」も明確になり、目標達成により近づくこと になるだろう。

## 想定リスクを抽出し、対策を講じる。

人災や天災などを問わず、想定外の出来事というのは 必ず起きてしまうものだ。綿密に計画を立案したところ で、これらの災害が発生してしまえば、計画の修正を余 儀なくされてしまう。そんな時にあわてて対策をし始め ても遅い。状況の変化を見越して、事前に対応策を講じ ておくことが重要だろう。

リスク対策には大きく2つの種類がある。1つはリスクそのものを未然に防ぐための「予防対策」。もう1つは「発生時対策」で、被害や影響を最小限に止めるための対策だ。

どちらにしてもリスク対策で重要なのは、**どのような** 状況にある時に、リスクの発生割合が高まるのかを知っておくことだ。

知っておけばいざという時にあわてふためくこともない。 事前に対応策を講じているのだから、落ち着いて対 応することができるはずだ。

#### 立案した計画を チーム全体で共有せよ。

個人だけでなく組織でも PDCA を回そうという場合には、「共通の問題意識」を持つことが重要になる。計画の立案時においても、ゴールイメージを共有することが大前提となるが、簡単なことではない。経営者など"目標を提示する側"の人間は、「細かく説明しなくても理解できるだろう」と思い込んでしまいがちだ。おまけに、目標を部下とともに設定する、チーム全体の行動計画をまとめる、といった動きをしない経営層も多い。

組織として「十分な説明のないままに進められる計画」 が存在する場合には、必ず、「いつ、何が、どのような 状態になっていればよいのか」といったことを声に出し て追求すべきである。PDCA が回らなくなる大きな原 因の1つに、「計画のすり合わせ不足」が挙げられるか らだ。

### 計画を「自分ごと」として考えさせよ。

「共通の問題意識」を持つためにチーム全体で共有すべきと書いたが、それだけではない。計画を共有しようとすると、「なぜそれをやらなければいけないのか」という議論に終始してしまい、「どうすればできるか」といった前向きな議論に入れない組織が多い。

組織でPDCAを回すのであれば、目標設定や計画段階からメンバーの合意形成を図り「やらされ感」をなくしていくことが重要になる。「やらされ感」が強くなってしまうのは、目標が腑に落ちていないとか、どこを目指しているのかわからないからだ。人間は、ゴールが見えないと行動を躊躇してしまう生き物だ。「適切な計画」というのは、「メンバーの納得度が高い計画」とも言い換えられるだろう。

### KPIとは、 自社のビジネスにとって どこが重要かを認識することだ。

02の項で「組織のゴールを KGI として設定し、それを達成するための数値を KPI として設定すべき」と書いたが、ここは重要なのでもう一度書いておく。

KGI は会社の売上や「自分の今期の目標」など明確になっているものが多いため設定しやすい。ただ、そこからブレイクダウンする KPI を設定する際、押さえどころを間違えてしまってはいけない。

自社のビジネスや自分の目の前の仕事において、どんな数値をクリアすればKGIを達成できるのか、そこをよく考えるべきだ。どんなビジネスであれ、「どこを押さえるべきなのか」という視点を持つことは非常に重要だと言える。

### 達成手段を細分化し、 業務フローに落とし込め。

計画立案の際に設定した「具体策」を日々の仕事に落とし込んでいく必要がある。具体策を検討したところで、現実に適用できないケースも多々あるからだ。たとえば、一般的には適切な達成手段であったとしても、今いるリソース (=メンバー) の能力や経験が不足してできないなどという場合が該当する。

そんな時は、達成手段と同じ方向性で自分ができることはないかを考えてみるべきだ。業務フローに落とし込む際にも「自分にはできない」と考えるのではなく、「どうすればできるか」と考えるのがポイントだ。いきなりはできないとしても、まずはできることから着手して、徐々にできることを増やしていくなどでも構わない。とにかく前に進むことが重要なのである。

### 手帳に書き込めるほど 明確な行動スケジュールにせよ。

「どうすればできるか」を考えて作った業務フローを、次は行動スケジュールに落とし込んでいく。ここで重要なのは、日常的な行動スケジュールに置き換えていくことだ。1カ月・1週間・1日単位という行動計画に置き換えていかなければ、どうしても実際の遂行イメージは湧きにくい。手帳などに、具体的な実践項目を書き込めるほど細分化していくとよいだろう。

これによって、計画段階で掲げた大きな目標も、「今日1日、目標に向かって何をすべきか」という小さなプランまで落とし込むことになる。このように逆算できてはじめて、目標に向かって動き出すことができるはずだ。あとは手帳に書き込んだ通りに、毎日行動していけばよい。なぜ、ここまで行動にこだわるかと言えば、経験を積み上げていくことが重要だからだ。人間は、およそ経験のないことはうまくできない。行動して経験を積み上げることで、目標に近づくことができるのである。

### 問題発生時は ダブルループを回せ。

行動していく中で、どうしても予期しない問題は発生する。しかもそれは、必ずしも明確な「問題」という形で姿を現さないことも多い。「なんだかうまくいかない……」というような場合だ。

#### そんな時に実施すべきは、「ダブルループ」を回すこ

と。ダブルループとは、問題発生時に考えるべきPDCA サイクルであり、以下のキーワードで表現される。

- · Problem Finding (問題発見)
- · Display (可視化)
- · Clear (問題解決)
- · Acknowledge (確認)

問題を明確に発見し、自分だけでなく周囲にもわかるよう可視化する。そして問題の解決にあたり、解決したことを確認して通常のPDCAサイクルに戻る、というわけだ。

Date DO ·

### 問題発生時のキーワードは 「なぜ?」。

問題発生時に問題を明確に発見すべきと前述したが、 どうしても問題が明確にならない場合や、何が問題なの かわかりにくい場合がある。また、「これが問題か」と 発見したものが実は表面的な話であり、抽象的すぎて解 決策が思い浮かばないというケースもよくある。

そんな時に有効なのが、いったん立ち止まり、「なぜ?」 と問うことだ。製造業の現場などでは古くから言われて いるが、原因として考えられるものを究明するために「な ぜ? | を繰り返しぶつけていく。最初は表面的な問題に 過ぎず、原因がよくわかりにくいものであっても、「な ぜそれが起きるのか? | 「なぜそうなるのか? | と繰り 返し問い、掘り下げていくことで、真の原因が見えてく るはずだ。

# 「忙しい」という言葉に惑わされてはいけない。

「やらなければならないことがたくさんあって忙しい」ということは、日々誰もが感じていることだろう。しかし、ここでもよく考えなければいけない。「たくさん」というのは、いったいいくつあるのだろうか? そして、いくつなら「少ない」と言えるのだろうか? 慣れない仕事は自らの力でコントロールすることが難しいと感じるし、突発的な業務があったりすると、ついつい「たくさんの仕事」などと思い込んでしまいがちである。

しかし、冷静に考えればそこまで大げさな話ではないはずだ。計画時に優先順位をつけなかったがゆえに「結局、何も進まない」という思考停止状態を招いているだけなのである。これを防ぐためには、PLANの項でも書いた通り「やるべき業務の洗い出し」と「緊急性」や「重要性」などの分類が必須だ。分類をしたら、優先順位をつけて粛々と対応していけばよい。それだけの話なのである。

### スキルだけでなく 「心」と「体」の状態も重要。

仕事をうまく進められない、PDCAを最後まで回すことができないといった時、心の持ちようや体の状態が関係していることがよくある。「なんでこんなことをやらなければいけないんだ……」などと考えていては質の高いアウトプットは期待できないし、体調が悪くても同様だ。DOにおいて意識すべきは、仕事に取り組む際の「心の状態」や「体の状態」を整えることなのだ。

そもそも PDCA を回し続けることは、会社のためだけではない。仕事に取り組む自分自身のためであり、自分のスキルを向上させることにもつながる。仕事をしながら自らも成長できるのだから、仕事をさせてもらっていることに感謝しなければいけないくらいだ。また、仕事を任されている以上、誰もがその仕事の「プロフェッショナル」のはずだ。プロというのは結果を出すために、心身ともに万全の状態で仕事に臨まなければいけない。

### 検証と感想を 混同するな。

CHECK (検証)とは、「振り返り」のことだ。PDCAサイクルのP (計画)に対して、どこまでD (実行)することができたのかをしっかりと振り返ることが「検証」と言える。しかし、実際には、検証作業をしているように見えて、できていないケースが多い。

たとえば、事実を検証するのではなく、関係者たちが 「感想を言い合う」だけになってしまうパターン。「苦労 したけど、充実していた」「大変だったけど成長できた」 などと、いくら感想を言ったところでサイクルは回って いかない。「次に何をするか」「どう改善していくのか」 という発想になっていないからだ。

また、経営者の場合には検証ではなく「追及」になってしまうケースも多い。検証において大切なのは、「正しく現在の状況・事実を把握する」ことであり、「どうすれば改善できるのか」といった視点で事実に向き合っていかなければならないのだ。

#### Date CHECK

### 「P」と「D」の ギャップを特定せよ。

先ほど、P (計画) に対してどこまで D (実行) することができたのかをしっかりと振り返ることが「検証」である、と書いた。ここは本当に重要で、計画と取り組み内容の整合性がとれているかを把握することがキモになってくる。そして、そこには明確な判断基準も必要となってくるだろう。ギャップとして見えてくる事実を客観的に整理することも、抽出する事実にモレがないようにすることも重要だ。

もっと言えば、その事実をどのように理解するかも大事なポイントで、人間というのはどうしても事実を「自分が見たいように見てしまう」というクセがある。せっかくギャップが浮き上がってきたのに、その事実を都合よく理解していては正しい検証はできない。自分の理解を絶対視せず、周囲の人たちにも協力を求めながら検証していくべきである。

### 検証する対象を はっきりさせる。

検証は、サイクルの次に続くAction(改善)のために行うものでもある。しかし、何を検証してどのように改善していくかが明確にならなければ、PDCAサイクルはその回転を止めてしまう。大切なのは「検証して改善したいフィールド」を明確にすることだ。検証する対象を曖昧にせず、解決にあたるメンバーで認識を共有していく必要がある。検証する対象としては次のようなものが当てはまるだろう。

- 「コト」…活動・行為・作業などを検証する
- ・「モノ」…製品や商品などを検証する
- ・「ヒト」…チームや組織などを検証する そのほか、仕事に対する「考え方」など、思考を検証 する場合もある。

いずれにしても、検証する対象にしっかりとフォーカスしなければならない。

#### Date CHECK

### 検証の機会は、 何度も何度も設けるべき。

検証の目的は、正しい改善策を導き出して成果につな げていくことである。そのためには、検証は、年に1回 などというタイミングではダメで、検証する回数が多い ほどよい。具体的には、「今週の目標に対する結果はど うなのか」「今日の目標に対する結果はどうなのか」と 検証の間隔を縮めていくことが重要だ。

検証タイミングを固定してしまうのもよいだろう。「毎週金曜17時」など固定スケジュールにしてしまうことで、嫌でも検証せざるを得ない仕組みにしてしまう。そうすることで、PDCAサイクルの回転は速度を増していくだろう。

実際、PDCA サイクルを高速回転させる企業は増えている。特に WEB サービスの会社の検証スピードはすさまじい速さになってきており、朝に設定した1日の目標を午後に検証、夕方には改善策を検討する……などという部署もあるほどだ。早いタイミングで検証をするほど、成果は出しやすくなると言える。

### ミス発生時は、 原因を明確にせよ。

検証する際にミスが発覚することも少なくない。ミス や失敗というのはほとんどが人為的なものであり、組織 では「ミスを犯した人」にスポットが当たりやすくなっ てしまう。しかし、当事者に責任を取らせるだけでは問 題は解決しない。**重要なことは、ミスや失敗を「ヒト」 の問題というよりも、まずは「コト」としてとらえてい くことだろう**。コトとしてとらえるためにも、次の5つ の「M」の順で原因を探っていくとよい。

- ①Mission……そもそも使命や目的を取り違えていないか? 目的と手段の混同はないか?
- ②Machine……使用した機械やツールに不備やトラブルはなかったか?
- ③Media……関係者とのコミュニケーションや情報伝達 のしかたに問題はなかったか?
- ④Management……業務を遂行する際のマネジメント 手法に問題はなかったか?
- ⑤Man……実行した人に問題はなかったか?

### 検証できないのは、 計画が甘いから。

検証をしようと思ってもできない、という話もよく耳にする。内情を見ていくと、「目標数字にまったく届いておらず、お話にならない」「数字を取っていなかった」「検証をする時間がない」など理由はさまざまだが、これらは「計画の甘さ」にほかならない。

計画をしっかり作り込み、それをメンバー全員が理解 していれば、評価すべきことは自然とあきらかになって くる。検証段階で何をしなければならないのかを意識し なくとも、PDCAサイクルは自然と回り始めるはずなの だ。

計画が甘いのであれば、次の計画段階でしっかり修正するのはもちろんだが、今の段階で検証できるものは検証して、次のActionへとつなげていくべきだ。諦めるのではなく、動かせるところだけでもサイクルを動かしていくことが重要なのである。

### Actionは、PDCAを回す 目的そのもの。

Action (改善) は、目的を達成するためや成果をさら に上げるために、達成手段や方法を変更していくことで ある。「改善をするなんて大変だ」とか「日常業務と別 に取り組むなんて時間がない」などと言う人がいるが、 その解釈は間違っている。改善というのは仕事における 効率性を上げていく行為であり、今の業務において生じ ている無駄やムラを排除していくこと。言ってみれば、 「必ず取り組むもの」であり、「PDCA を回す目的その もの」と言っても過言ではない。

日本企業にはいまだ「必死でがんばる」だの「気合い を入れる」だの、努力や根性といった精神論で事態を打 開しようとする考えが蔓延している。そうではなく、 Action を徹底して合理的・効率的な方法を考えること を最優先にしなければならないのだ。

#### Date ACTION

### 効率的な手段のために、 知恵を絞れ。

「効率的な方法を考えることを最優先に」と書いたが、何をするかと言えば、ひたすら知恵を絞ることだ。ここまで PDCA を回してきたのであれば、どこに向かうべきか、現状はどうなのか、なぜそうなっているのか、などが見えてきているはずだ。それらの材料を踏まえて、何をどう改善すればよいのか必死で考えるのだ。

ビジネスの世界においては、受験勉強のように正解が どこかに書いてあるわけではない。お金を払って誰かが 解決することでもない。**自らの頭で知恵を絞っていくこ とが、すなわち改善なのである**。考え続けることが、最 後には自分の血肉となっていく。とにかく、必死で改善 案を考えるのだ。

# 日常業務を「見える化」すべし。

改善案を考えるためのコッとして「見える化」がある。 ルーティンワークのような業務は、日々当たり前のよう に行っているため、問題点に気づかないことが多い。

たとえば、自分の業務の流れを書き出すという行為は、 埋没しがちな業務を顕在化させ、客観的に分析するきっ かけとなりうる。

そこで、自分の業務のスタートから完了までの流れを、 マニュアルを作る要領で書き出していく。

どのような手順で、どのような方法で業務を遂行し、 どのような判断基準を設けながら突発的な事柄にも対応 しているのか。そうして自分の全業務を可視化していく ことで、業務における改善点も見えてくるはずだ。一度 書き出してみることで、客観的な視点を手に入れること ができると気づくだろう。

#### Date ACTION

### 改善点は、 「属人的」「否定語」から探し出せ。

改善点を見つけるためには、「属人的な業務と否定語 にフォーカスするし方法が有効だ。

業務の中には、「あの人でなければわからない」「あの 人にしかできない」と言われるものが、どの会社にもあ る。それがクリエイティブな業務でない場合、このよう な属人化は危険である。その人がいなくなれば業務は 滞ってしまうし、何か問題があった時にチームとして対 処できなくなってしまうからだ。特定の人に集中、依存 していること自体を問題としてとらえ、改善策を講じて いく必要がある。

また「不」や「非」といった否定語が使われている業 務には、多くの問題点が隠されていると言える。くわえ て「いちいち」とか、「またか」「イライラ」といったネ ガティブなキーワードが出るような業務領域にも問題が 隠れているものだ。まずはこのような言葉が使われてい ないかを調べてみると、改善点を見つけやすいだろう。

#### Date ACTION

### 改善点に向き合うための 思考を持て。

「改善点」や「問題点」などの困難に向かうためには、 次の3つの考え方を身につけておく必要がある。

- ①センター思考……「これは自分の問題でもある」と当事者意識を持ち、率先垂範で問題解決に取り組んでいくべきだ。センターに立つということは、外にいる傍観者に対しても説得力が働く作用があるため、チームを巻き込むことにもつながっていく。
- ②プラス思考……壁が立ちはだかったとしてもすぐに諦めず、常に前に進もうと考えるべきだ。PDCAは諦めずに回そうとした人こそ回すことができる。また、チームで改善に取り組む際にも他者の意見を否定せず、「どうすれば実現できるか」とプラスに考えるべきだ。
- ③ステップ思考……行き当たりばったりではなく、計画的に物事を進めていくべきだ。また、「気合いで乗り切る」といった精神論や根性論ではなく、達成に向けたストーリーを明確にして実践し続けることで、PDCAサイクルを的確に回していくことができる。

### 「今やるべきこと」に 照準を合わせよ。

改善を進めようとすると、さまざまな壁にぶち当たることがある。たとえば「組織内の軋轢」だったり、「社員間の価値観の違い」、「評価制度の解釈」や「現状維持バイアス」などだ。

「現状維持バイアス」というのは「今のままでいいんじゃないか」と考えてしまう人間の特性のことで、特に、こういった思考が組織の成長を妨害してしまうものだ。

ただ、これらの要因のほとんどは言ってみれば「社内の事情」。「社員同士の考えが合わないから改善をしない」とか、「評価制度のとらえ方によって改善をやめてしまう」など、ナンセンス極まりない。企業が活動をする目的は、**お客様の幸せのため**だ。であれば、改善を進めるのも止めるのも、社内の事情ではなく、「**お客様にとってどうか**」で判断するべきだ。お客様のために今やるべきことは何かということにフォーカスし、改善を進めるべきなのである。

#### Date ACTION

### 「当たり前」の レベルアップを図れ。

PDCA サイクルの回し方は、実は「円」ではない。 螺旋階段を登るように上昇していくものなのである。

つまり、今行っている目の前の仕事を、1年前と同じ ようにやっているとしたらビジネスパーソンとして失格 だということだ。

PDCA を回すということは、上昇していくことであり、「Action」の段階でやり方を改善することである。 つまり、常にレベルアップをしていなければ、PDCA を回していることにはならない。

「当たり前のようにやっている仕事」でも、PDCAを回すたびにレベルアップし、昨年よりも効率のよいやり方で動かしていなければ、ただの「作業」。厳しいようだが、それを「仕事」とは呼べない。そんな考え方を念頭に置きながら、日々の仕事に向き合っていくべきだろう。

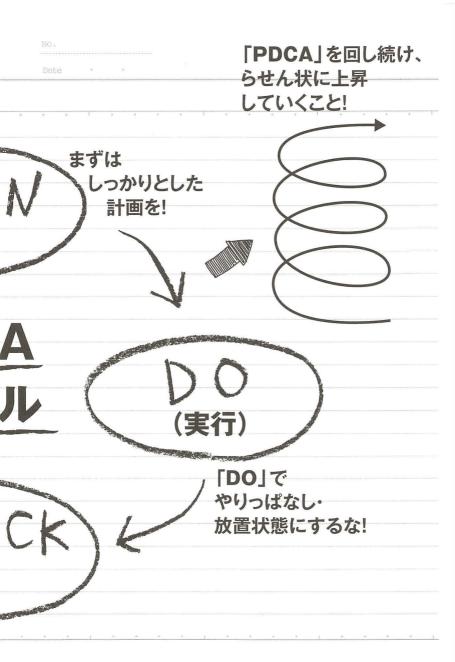
### 改善がゴールではない。 サイクルを回し続けることが ゴール。

PDCA サイクルの最後に「Action」があるため、改善を業務に取り入れたらそれで終わりと思っている人も多い。しかし、改善をしたからといって終わりではないし、当初の目標をクリアしたからといってそこで終了というわけでもない。改善したらその改善の効果を測定し、目標をクリアしたら次の目標を設定しなければならない。

## つまり、PDCAサイクルにおけるゴールとは、「サイクルをしっかりと回し続けること」なのである。

ビジネスにおいて完璧ということがないように、改善に終わりもない。PDCA サイクルも、できる限り速く、しっかりと、多くの仲間とともに回し続けていくことが最も重要なことである。

PDCA サイクルを回すことができれば、個人も、企業も、成長し続けるはずだ。



新たな 「PLAN」を立てる CTION [CHECK]で 発見した改善点を 確実に実行していく

#### 参考文献

- ●川原慎也 (2012) 『これだけ! PDCA』 すばる舎
- 日本能率協会マネジメントセンター編 (2013) 『仕事が早くなる! C からはじめる PDCA』 日本能率協会マネジメントセンター
- 東秀樹 (2014)『チームの目標を達成する! PDCA』 新星出版社
- ●川原慎也 (2014) 『〔ポイント図解〕 PDCA が面白いほどできる本』 KADOKAWA/中経出版
- ●原マサヒコ (2014) 『新人 OL ひなたと学ぶ どんな会社でも評価 されるトヨタの PDCA』 あさ出版
- 小山昇 (2015) 『儲ける社長の PDCA のまわし方』 KADOKAWA/中経出版

全員プレゼント

## 原マサヒコ先生を探して サイドストーリーを読もう!



● 原マサヒコ先生は この人

本書のどこか(まんがの部分) に、著者・原マサヒコ先生が友 情出演しています。何ページ に出ているか、下記ホーム ページ内でお答えください。 応募してくださった方全員に、 ここでしかもらえない PDF (まんが)をプレゼントします。

応募はこちらから…… ◆ http://www.haramasahiko.com/pdca



まんがで身につけたPDCAを さらに強化するチャンス! 皆様、ふるってご応募ください。



#### 原マサヒコ (はら・まさひこ)

株式会社プラスドライブ代表取締役 CEO

神奈川トヨタ自動車株式会社にメカニックとして入社後 PDCA を叩き込まれ、技術力を競う「技能オリンピック」で最年少優勝。カイゼンのアイデアを競引アイデアツールコンテスト」でも、2年連続全国大会出場を果たす。IT 業界へ転身後も PDCA サイクルを意識し続けた結果、PC サポートを担当したデル株式会社では「5 年連続顧客満足度 No.11 に貢献。

WEBマーケターとして一部上場企業を中心に成果を出し続け、2015年3月に株式会社プラスドライブを設立。クライアント先のWEBサイト改善やマーケティング施策の推進において、PDCAサイクルを回し続けている。SMBCコンサルティングをはじめPDCAに関する講演依頼が後を絶たず、全国を飛び回っている。

著書に『新人 OL ひなたと学ぶ どんな会社でも評価される トヨタのPDCA』(あさ出版)、『どんな仕事でも必ず成果が出せる トヨタの自分で考える力』(ダイヤモンド社) などがある。

◆原マサヒコ official site www.haramasahiko.com

#### まんが

#### 兼島信哉 (かねしま・のぶや)

まんが家・イラストレーター

2014年、まんが専門校・日本マンガ塾卒業。

映画『バクマン。』の中で、新妻エイジが連載するまんが「CROW」の制作を 担当するなど、イラストやまんが制作案件を請け負いながら、有名作家のア シスタントもこなす。

現在、「週刊少年ジャンプ」の担当編集者と次回作を制作中。

#### Business ComicSeries

#### まんがで身につく PDCA

〈検印省略〉

2015年 12 月 17 日 第 1 刷発行 2016年 2 月 2 日 第 3 刷発行

著者――原マサヒコ(はら・まさひこ)

まんが――兼島 信哉 (かねしま・のぶや)

発行者——佐藤 和夫

#### 発行所――株式会社あさ出版

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-9-9 第一池袋ホワイトビル 6F

電 話 03 (3983) 3225 (販売)

03 (3983) 3227 (編集)

FAX 03 (3983) 3226

URL http://www.asa21.com/

E-mail info@asa21.com

振 替 00160-1-720619

印刷·製本(株)光邦

乱丁本・落丁本はお取替え致します。

facebook http://www.facebook.com/asapublishing twitter http://twitter.com/asapublishing

©Masahiko Hara 2015 Printed in Japan ISBN 978-4-86063-832-0 C2034



